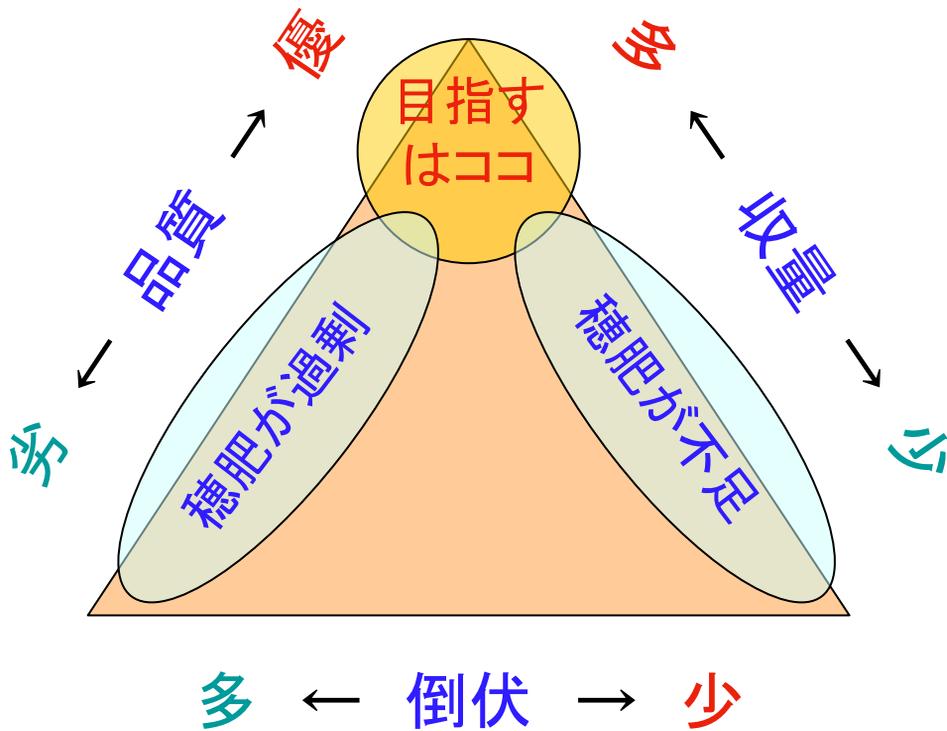


三拍子そろったコシヒカリをつくるには —目指すは収量よし・品質よし・倒れない—



理想的なイネ

- 茎葉と籾数のバランスが良い
- 出穂後の葉色が淡すぎない

理想的な生育のために…

水稻の生育をみて
穂肥時期を変える

- ☆ 籾数が多くなりそうな時は穂肥を遅らせる
- ☆ 葉色を落とさないために穂肥は2回施用

○理想的な粒数は28千粒/m²

※最大に近い収量、厳しい倒伏は回避

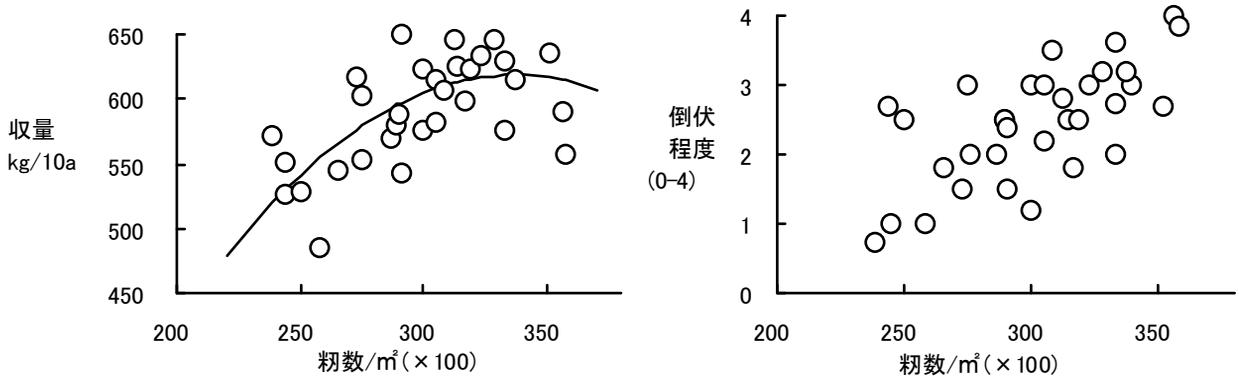


図 粒数と収量・倒伏程度の関係(1992～2008年農試コシヒカリ)

○穂肥を遅らせると品質が向上

※高温登熟条件では穂肥1回だと基部未熟粒が増加

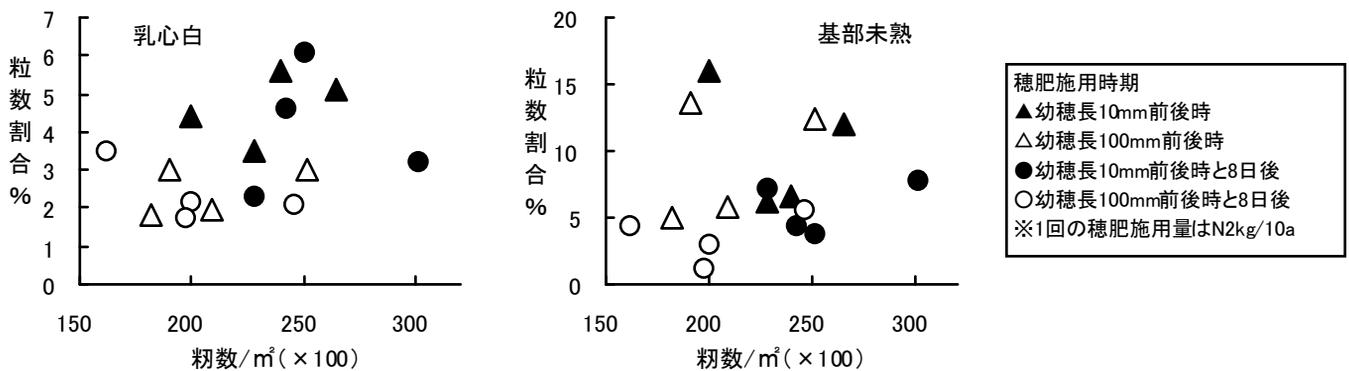
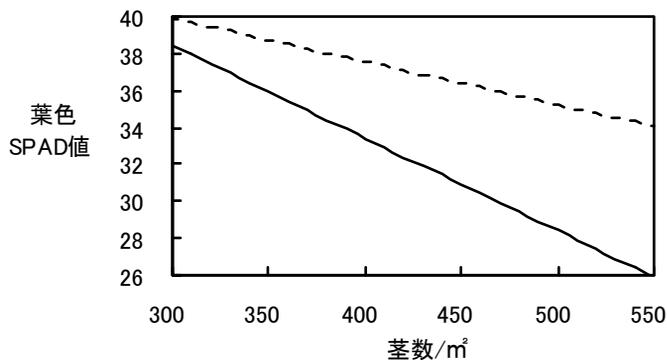


図 穂肥時期・回数と白未熟粒発生率の関係(2008年農試コシヒカリ)

○穂肥施用時期を決定するための生育指標



○幼穂長10mm前後の時期の生育を図中にプロットし、その位置によって穂肥施用時期を決定する。

プロットの位置	1回目穂肥施用時期
実線付近以下	ただち
実線と点線の間付近	2～3日後
点線付近以上	5～6日後

実線：慣行穂肥で粒数が28千粒/m²になる生育
点線：穂肥を慣行より5～6日遅らせてもよい生育

※本技術は高温登熟による品質低下の懸念される地域で適用してください。

(問い合わせ先)

鳥取県農林総合研究所 農業試験場 作物研究室
TEL : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず
農業試験場の許可を受けて下さい